

2020年度 防災教育チャレンジプラン報告会

「医療的ケア児と家族のための 防災チャレンジ」

2021年2月13日（土）

NPO法人 i-care kids京都

「医療的ケア児」 とは？

医療的ケア児とは、、、

医学の進歩を背景として、N I C U等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引等の医療的ケアが日常的に必要な子どもたちのこと。

年々増加する 医療的ケア児



〔平成30年度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究（田村班）」30歳未満の障害福祉計画策定・推進関係者等による作成〕

図2 医療的ケア児・在宅人工呼吸患者の実数。平成30年度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究（田村班）」の協力のもと障害福祉課障害児・発達障害者支援室で作成

NPO法人 i-care kids 京都



- 2019年1月に法人設立
- 急増する医療的ケア児とその家族を支援するために設立された。
- 医療的ケア児が通園できる「小規模保育園キコレ」を2020年4月に開園。
- 保育事業を柱に医療的ケア児の家族支援事業、関係機関との連携事業を行っている。
- ホームページ：
<https://i-carekids.com>

小規模保育園 キコレ

- 医療的ケア児（人工呼吸器使用児1名を含む）が3名、医療的ケアは必要ないけれど比較的重度の障害を抱える子ども4名、計7名が在籍している。

- 年齢は、2歳～6歳

- 7名中、独歩ができる子どもは1名、口語でのコミュニケーションが可能な子どもは1名のみ

- 保育士、看護師、作業療法士、管理栄養士など15名の多職種チームが保育を担っている。

小規模保育園 キコレ



私たちが 防災教育 チャレンジプ ランを通して 行いたいこと

（１）小規模保育園キコレでの避難訓練を通して、医療的ケア児や重い障害を抱える子どもたちの防災に取り組む。

（２）防災シンポジウムなどを通して、医療的ケア児家族や関係者と医療的ケア児×防災に取り組む。

（３）地域でのネットワークを構築する。

（１）小規模保育園キコレでの取り組み

- ①防災マニュアル、非常時持ち出し袋、避難計画の作成
- ②毎月1回の避難訓練の実施
- ③地域の警察署、消防署、行政、専門家との連携
- ④保護者への啓蒙活動

小規模保育園
キコレでの取り
組み
2020年4月～9月

2020年 4月	「防災マニュアル」の作成、「年間避難訓練計画」の作成、 緊急時持ち出し袋の作成 ・黄色リュック:通常お散歩グッズ ・青色リュック:一時避難用グッズ ・赤色リュック:医療的ケア児用物品 ・緑色リュック:非常食関係 10日(金)地域の消防署による指導 25日(金)保育中に震度4の地震が起こったという想定での避難訓練	
5月	15日(金)保育中に震度5の地震が起こったという想定での避難訓練	
6月	17日(水)建物のエントランス付近で不審火が起こったという想定での避難訓練	
7月	13日(月)大雨特別警報が発令されたという 想定での避難訓練 20日(月)救急救命講習を地域の消防署協力のもと実施。	
8月	21日(金)不審者侵入という想定で警察署と連携のもと訓練実施	
9月	15日(火)保育中に震度3程度の地震が起こったという想定での避難訓練。人工呼吸器使用児が初めて訓練に参加。	

小規模保育園
キコレでの取り
組み
2020年10月～
2021年3月

2020年 10月	26日(月)お散歩中に不審者に遭遇するという想定での訓練実施
11月	24日(火)火災発生の訓練実施。消火訓練も同時に実施。
12月	17日(木)少人数保育中に震度3の地震が発生したという想定で訓練実施。 けがに対する応急処置研修の実施。 非常時持ち出し袋の再点検。
2021年 1月	18日(月)阪神淡路大震災級の地震が発生したという想定で訓練実施。佛教大学・福祉教育開発センター 後藤 至功先生にアドバイザーとして来園してもらう。 非常食を給食にて提供。
2月	1月の訓練にて課題にあがった家具の固定、防災物品の準備等を行う。 保護者と緊急時対応について再確認。 「防災マニュアル」の見直し、新年度に向けての改訂。 9日(火)火災の避難訓練実施予定
3月	11日(木)シェイクアウト訓練に参加予定 31日(水)2020年度防災教育チャレンジプラン事業終了

（２）防災シンポジウム等の実施

北海道や熊本などの震災を経験され、医療的ケア児に日ごろから関わっておられる先生を招いての防災シンポジウムの開催を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。

⇒急増している医療的ケア児に対応するため、今後全国的な取り組みが必要だと思われる。今後の課題としてしておく。

（３）地域でのネットワークの構築

- ・地域の消防署、警察署との連携は出来つつある。今後も訓練等を通して連携をしっかりとっていきたい。
- ・佛教大学の後藤先生と連携が取れ、今後一緒に「医療的ケア児×防災」に取り組んでいけることになったのは、有意義であった。
- ・今年度は新型コロナウイルスの影響で地域の自主防災会や社会福祉協議会等との連携は難しかった。今後の課題として持っておく。

今後の課題

■ 取り組みたいこと

(1)小規模保育園キコレでの取り組み(3か年計画)

- ・家具や医療機器の固定などより安全な環境整備
 - ・必要な防災物品の購入・準備(非常食・自家発電装置等)
 - ・保護者との連携、家庭での取り組みを支援する。
 - ・子どもたちへの防災教育
 - ・避難訓練の積み重ねにより、様々な課題を抽出しつつ、課題解決をしていく。
- ⇒BCPの作成、改訂を重ねていく。

今後の課題

■
取り組みたいこと

(2)防災シンポジウムの実施や関係者の防災力アップ

・保育園での実践を積み重ねつつ、新型コロナウイルスの感染が落ち着いたところに、震災を経験した医療的ケア児・家族の声を聞いたり、関係者の声が聞ける機会を設ける。

地域の関係者、家族の「医療的ケア児×防災」の意識を高め、災害が起こった際に子どもたちの命を守れる地域づくりを行っていく。

今後の課題

■ 取り組みたいこと

(3)地域のネットワークの構築

- ・まずは保育園の近辺から、地域のネットワークの構築を行う。(社会福祉協議会、自主防災会、近隣の保育園、学校等)

- ・京都で医療的ケア児に関わる関係者とのネットワークの構築を行う。(基幹病院、小児科クリニック、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、療育施設、行政関係者等)

⇒「助けてもらう力」をしっかりとつける。「心配してもらえる事業所」になる。

ご清聴ありがとうございました。



防災紙芝居を見ている子どもたち